



2024年のハマトビウオ漁

2024年の水揚状況

八丈島において、ハマトビウオは「春トビ」という通称名で親しまれ、町のシンボルにもなっています。

2024年のハマトビウオ漁は3月23日に始まり、5月7日の水揚げを最後に約1ヶ月半におよんだ漁が終わりました。

八丈島におけるハマトビウオの水揚尾数・延べ出漁隻数・CPUE（1日1隻当たりの水揚尾数）を表1に、2024年の水揚尾数の推移とCPUEを図1に示しました。2024年の水揚尾数は約2.1万尾となり、2014年以降では2020年、2023年、2022年に次いで4番目に少なく、過去10年平均の8.4%の値でした。延べ出漁隻数は41隻で、過去10年平均の54.7%であり、CPUEは510尾/隻・夜で同19.6%となりました。

表1 八丈島におけるハマトビウオの水揚尾数と延べ出漁隻数およびCPUEの推移

漁期	水揚尾数 (尾)	延べ出漁隻数 (隻)	CPUE (尾/隻・夜)
2014年	669,435	113	5,924
2015年	342,975	129	2,659
2016年	491,501	101	4,866
2017年	219,833	106	2,074
2018年	358,589	74	4,846
2019年	269,583	109	2,473
2020年	821	6	137
2021年	102,821	49	2,098
2022年	11,022	23	479
2023年	20,113	44	457
10年平均	248,669	75	2,601
2024年	20,898	41	510

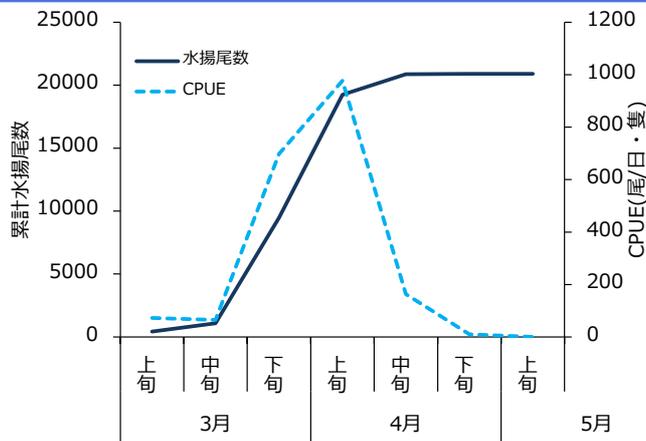


図1 2024年のハマトビウオ累計水揚尾数とCPUEの推移

資源状況

八丈島では、最大の水揚尾数を記録した1961年には800万尾を超える水揚げがありました。その後、好漁が続きましたが、1981年の347万尾の好漁を最後に1984年から激減し、1991年には水揚げが0となりました。その後、資源は回復傾向にありましたが、再び2020年から水揚尾数が極端に減少しています。

水揚尾数やCPUEが減少していることから、来年以降の状況についても注意深く見守る必要があります。



図2 ハマトビウオの水揚風景